

申請者	学科名	デザイン工学科	職名	教授	氏名	岩本弘光
調査研究課題	スリランカにおける初期近代建築（1939-1959年）の発展に関する研究					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表					
	分担者					
調査研究実績の概要	<p>□学術的背景 国内におけるスリランカの建築に関する学術研究は甚だ乏しい。1948年に400余年間の植民地時代から独立したスリランカにあって、伝統建築とモダニズムの衝突が如何なるプロセスと事由で「スリランカにおける建築のモダン・ムーブメント」を切り拓いたのか、との国内の建築的知見は皆無であり、国外においても断片的な報告に留まっている。本研究ではスリランカ初期近代建築に関する未踏査の領域に着目して、1930年代-60年代に展開したスリランカにおける建築のモダン・ムーブメントの成立過程を明らかにした。</p> <p>□現地調査研究実績 スリランカの英国からの独立期にシンハラ王統を嗣ぐ「キャンディ様式」を模倣した、ガスター設計の「トリニティ・カレッジ教会」キャンディ,1935年を調査した。次いで、ポスト・コロニアル期のモダニズム建築の初出である「バウルス・ビルディング」に次ぐイギリス人建築家アンドリュー・ポイド設計の「ハロルド・ピエリス邸」キャンディ,1942年を調査して現所有者のインタビューを得た。アジア初のRIBA女性スリランカ人建築家ミネット・デ・シルバ設計の崩壊寸前の住宅「カルナトネ邸」キャンディ,1950年を記録に納め、その後「イアン・ピエリス邸」コロombo,1952年を調査した。またこの住宅に隣接するデンマーク人建築家ウルリック・プレスナー設計の「J.R.M.ペレーラ邸」コロombo,1964年を調査してペレーラ氏のインタビューを得た。コロomboではE.R.&amp;B.パートナーのバレンタイン・グナセケラ設計の「ジェズイット教会」1960年を調査した。これらの調査建物は、スリランカの伝統とモダニズムを融合して島のモダン・ムーブメントを切り拓いた、ジャフリー・バワとウルリック・プレスナー設計の「イナ邸」に続いていった。</p>					

調査研究は日本建築学会の機関誌「建築雑誌2017年2月号、特集アジア建築家山脈、スリランカ編」に本研究の成果として寄稿した。以下、本文の一部を掲載する。

第1部 | アイデンティティの模索

ジェフリー・バワ (1919-2003、スリランカ) —— 沈黙なる饒舌

Geoffrey Bawa (1919-2003, Sri Lanka) —— Silent Testimony



ジェフリー・バワ  
[1919年11月17日・スリランカ・コロンボにて、1985年撮影]  
撮影：ウルフガング・プレスナー



ウルフガング・プレスナー  
[1919年11月17日・スリランカ・コロンボにて、1985年撮影]  
撮影：ウルフガング・プレスナー

第1部  
アイデンティティの模索

岩本弘光  
Hiromitsu Iwamoto

南山県立大学デザイン学部教授。岩本弘光建築研究所 / 1954年生まれ。  
日本大学理工学部建築学専攻修士課程修了。フィレンツェ大学建築学専攻修士(イタリア政府奨学金)、  
ミラノ工科大学建築学専攻修士(2009年10月-2011年3月)修士。建築家・建築計画。作品に「南山県立大学図書館」  
「静寂なる饒舌」ほか。著書に『静寂 ジェフリー・バワの建築』。日本建築学会作品選奨受賞ほか。

イナ邸——モダン・ムーブメントの幕開け

冒頭から結論めくが、1962年に完成した「イナ邸」(Ina de Silva house)が、スリランカにおける建築のモダン・ムーブメントの画期と云っていい。建築家はスリランカ人ジェフリー・バワと、デンマーク人ウルフガング・プレスナー (Ulrik Preisner, 1930-2016)である。「イナ邸」は、コロンボの小さな敷地に島伝統の中庭住居とモダン・デザインを融合させた美しい建築として人々の賞賛を浴び、彼らの名声を高めた。しかし、20世紀後半過ぎの1962年まで、なぜにインド洋に浮かぶこの小さな島国は、その時を待たねばならなかったのだろうか。これに答えるには、半世紀ほど時計の針を巻き戻す必要がある。

舌をコンペで獲得した英国人建築家ブーティー&エドワーズが事務所を開設していたが、彼らは貿易商人と同様に、植民地で富を得て本国で余生を送るのが人生の目標であった。島には自発的に新しい建築運動が胎動するために不可欠なファンダメンタルズが根本的に欠落していたのである。

政治的イデオロギーと建築の関係はどうであらうか。19世紀末になると、キリスト教と英語に染まったエリート層に対して、国のアイデンティティ・プライスを抱いた半信半疑のA・Zルマバワが、「仏教復興運動」を掲げて民族意識を高揚させた。独立後の新政府は、これを国家の思想的存在基盤にして、多党派シンハラ語の唯一公用語化など「シンハラ・オンリー」政策を掲げたが、少数民族タミル人との衝突を

スリランカのポスト・コロニアル期

スリランカは4世紀半に及ぶ植民地のくびきから逃れて1948年に英国から独立した。「植民地の模範生」であったはずのスリランカでは、宗主国のキャップが外れた途端に、広範囲な貧困、圧制への反感、近代化に必要な中産階級の不足など、アジア植民地共通の諸問題が吹き出した。島の建築事情は未整備で1900年代まで建築を教える教育機関はなく、建築家は20名に満たなかった。コロンボには、市庁



図1 イナ邸 1962年竣工当時の中庭 (撮影：ウルフガング・プレスナー)

調査研究実績  
の概要

成果資料目録

岩本弘光, 日本建築学会機関誌「建築雑誌2017年2月号, 特集アジア建築家山脈, スリランカ編」共著, p14-15, 2017年